

県立病院薬剤部 教育研修委員会だより

第14刊

平成29年3月

編集発行

兵庫県立病院薬剤部長会議

教育研修委員会

教育研修委員会の取組みについて

平成28年度の診療報酬改定では、有害事象防止やチーム医療の更なる推進のために薬剤総合評価調整加算や病棟薬剤業務実施加算2が新設されました。医療の質の向上及び医療安全の確保のために、薬剤師が主体的に薬物療法に参画することが求められており、その役割を果たすためには、まずレベルの高いジェネラリストである必要があります。また、薬剤部が組織として効果的に機能するためには、各人が職位に応じた責任を果たさなければなりません。

教育研修委員会では、総合型薬剤師育成の一環として「総合型薬剤師育成ラダーを用いたCPDに沿った生涯研修」について今年度から全職員を対象として全面実施を開始しました。会議では各病院の進捗状況を報告し、教育研修委員が適切に進行管理や指導を行うことにより、県立病院全体で円滑に実施できていると考えています。

全体研修では、臨床現場での実践力を習得することを目的とした臨床推論等について研修を行いました。階層別研修では、担当課長補佐・課長補佐を対象として、職場のリーダーとして貢献することを目的に、医療経済学、職場のモチベーションマネジメント等について企画しました。薬剤師専門教育研修では、専門・認定薬剤師取得の促進を図るために、がん・感染制御・救急領域の研修を実施しました。さらに県立病院相互利用合同研修では、他施設の取組みを学び自院での業務のレベルアップに役立てるため、外来化学療法患者への服薬指導・外来麻薬指導、心不全・抗菌薬適正使用カンファレンス、せん妄ラウンド、集中治療室での業務(成人・小児)の見学を実施しました。

今後とも、より質の高い医療サービスの提供に寄与できる人材を育成するために、有用な研修会等を企画していきたいと考えていますので、引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

薬剤部長会議教育研修委員会担当部長

姫路循環器病センター 薬剤部長 兵頭純子
加古川医療センター 薬剤部長 國東ゆかり

トピックス

熊本地震 DMAT 活動報告

加古川医療センター薬剤部 前原大輔

4月14日21時26分に発生した前震に引き続き、4月16日1時25分に熊本県熊本地方を震央とする、震源の深さ12km、マグニチュード7.3の地震(本震)が発生し、熊本県西原村と益城町で震度7を観測しました。

当センターは、この地震に対する急性期医療活動のため、厚生労働省からの要請に基づき災害派遣医療チーム(DMAT)を派遣し、関西広域連合へのドクターヘリ召集要請によりドクターヘリ派遣を行いました。私はDMATの一員(業務調整員)として4月16日朝からドクターカーで熊本に向かいました。当センターDMATは、熊本赤十字病院DMAT活動拠点本部におけるヘリ調整本部の立ち上げを尼崎総合医療センターDMATと協働して行うとともに、うまかなよかなスタジアムヘリ前線本部を拠点としたドクターヘリによる傷病者搬送に従事しました。被災地内では通信手段としての各種インフラが使用可能でヘリ調整本部・ヘリ前線本部及び熊本赤十字病院ヘリCS(運行管理者)間の通信・情報共有を確立することができ、ヘリ調整本部の機能を早期に立ち上げることができました。翌4月18日、活動拠点本部ヘリ調整部門の引継ぎを後続のDMATに行い、尼崎総合医療センターDMATとともに帰路につきました。

DMATの活動は出動したメンバーだけで成り立つものではありません。後方支援をしていただいた当センター薬剤部、救命救急センター他関係部署の皆様へ感謝いたします。

発災から半年経過した現在も熊本は復興途中の段階にあります。被災された方々の復興とご健康を心からお祈り申し上げます。



新こども病院が開院しました！

こども病院薬剤部 三輪祐太郎

2016年5月1日に、兵庫県立こども病院は須磨からポートアイランドへ移転し、新病院が開院しました。従来から小児疾患の全県拠点として、総合周産期母子医療センターでは他の医療機関で対応困難なハイリスク妊婦・胎児及び新生児への対応、小児がん拠点病院では、関係機関と連携し質の高い小児がん医療を提供してきました。新病院ではこれに加えて、救急・集中治療部門の強化を図り重症患者の広範囲の受け入れを行う他、長期入院患者の在宅療養に対する支援のための在宅支援病棟も整備されました。更に、遠方から長期入院する家族のためのファミリーハウスも併設されています。

薬剤部でも、適正薬物療法の推進によるチーム医療の充実・安全安心の医療への貢献を基本姿勢とし、電子カルテや調剤支援システム、最新の調剤機器の導入による業務の効率化・情報共有・リスク防止を

図りながら、病棟薬剤師活動の推進を図っています。薬剤管理指導業務では一般病棟だけでなく集中治療病棟、周産期病棟に対しても実施する他、7月からは病棟薬剤業務実施加算を取得しました。各病棟に専任薬剤師を配置することで従来からの栄養サポートチーム・感染対策チーム等の各種チームへの参加だけでなく、在宅病棟カンファレンス等の病棟毎の状況に応じた介入を行っています。移転後1年がたとうとしていますが、今後も業務内容の検証を重ねてより良い小児薬物療法の推進に寄与していきたいと思っています。

平成28年度県立病院薬剤師研修報告

全体研修（全職員対象）

平成28年6月4日（土）兵庫県私学会館

（参加148名）

京大外科医におけるマーケティングとイノベーション～仕事や人生が楽しくなる“深い話”～

京都大学肝胆移植外科・臓器移植医療部准教授 海道 利実

「Keep Studing」勉強は続けることが大切で、「今、現在の勉強」はすぐに仕事に生かすことができるというメッセージから講義が開始された。

学校で教わることの少ない、人の成功体験や失敗体験から多くのことを学ぶことができるので、松下幸之助や本田宗一郎などの創業者や偉人の本をたくさん読んで日常業務を変革していくためのヒントとしてほしい。

昨日と同じことを繰り返すことは単なる作業で、マーケティングにより患者ニーズを知って、ニーズに答えるために創意工夫をして改善行なってこそ仕事と呼べるものである。実例として、肝移植時における栄養療法として経口補水液の導入の成功例が取り上げられていた。

学会の抄録や論文の書き方の黄金比率「2（目的）：3（方法）：4（結果）；1（結語）」、リーダーが部下を伸ばす方法として「良いところをタイミングよくほめる」ことや若手のモチベーションを上げるためには成功体験をさせてあげるなど幅広い話をいただいた。

今後の仕事における業務改善のヒントとしてだけでなく、日常生活を過ごしていく上でも非常に参考となる内容であった。



薬学的臨床推論とその取り組み～どのように学ぶか体験しよう～

東京薬科大学医療実務薬学教室助教 川口 崇



午後の講義・SGDでは、薬学的臨床推論として、薬剤師の立場から、病態の状況把握・医薬品投与による病状の経時的変化・副作用の把握等の考え方をシステムチックに学びとして取り組む方法を体験した。「胃が痛い」という患者の訴えから、患者の背景（服薬歴、既往歴、現病歴等）を考慮し、患者の身に何が起きているのかを、グループに分かれて意見交換を行った。胃が痛くなる代表的な疾患および副作用を列挙していき、その疾患等を確定させるためにどのような検査・聞き取りが必要かまとめ、情報収集も行った。グループ内でまとめた案をもって実際に医師にワンテンスサマリーを用いて提案を行うといった形式で発表を行った。今回の研修で、「胃が痛い」という単純な訴えからあらゆる病気の可能性を考え、それ

を確定させるために必要な情報収集を確実に行うことが重要であることおよび医師に的確かつ簡便に伝えるための方法を修得する必要があることを学ぶことができた。今回の研修で学んだことを、今後の病棟業務等で実践していきたい。

階層別研修（担当課長補佐・課長補佐対象）

平成 28 年 11 月 5 日（土）神戸市教育会館（参加 20 名）

精神科領域の薬物療法

県立尼崎総合医療センター 副院長（精神医療担当） 見野耕一



講義では、初めに一般診療科と精神科での治療の違いとして、薬物療法だけではなく生活療法との併用が必要であることや服薬管理の重要性など精神科薬物療法の特性について説明があった。精神科では特に長期に渡り服薬が必要になることが多いので、服薬継続のために薬剤師の役割も重要であると感じた。次に、統合失調症患者の症例が紹介され、その内容が詳細であり、実際に臨床現場でどのように治療が行われているかがよく分かった。また、病歴だけでなく家族歴や生育・生活歴、患者の性格も示され、精神科においてはこれらが必要な情報であることが分かった。以上の説明の後、

各向精神薬（抗精神病薬、抗うつ薬、抗躁薬（気分安定薬）、抗不安薬、睡眠薬）について、作用機序や副作用、使用に際しての注意点等詳しい講義があった。抗精神病薬でよく知られている副作用としては錐体外路症状があり、急激な用量の増減は避けなければならない。精神科では多剤大量処方や長期服薬時の副作用にも注意が必要である。また、日本では多用されがちなベンゾジアゼピン系薬剤が欧米では余り使用されないことなど、向精神薬に関する幅広い知識が習得できた。

医療経済学入門 ～ 医療の質・経営向上のために

特定非営利活動法人 日本医療経営機構 主任研究員 田中将之

本講義では、学ぶ機会が少ない医療経営について詳細な解説があった。現在の医療組織を取り巻く環境として、超少子高齢社会や社会保障財政の悪化等の様々な問題があり、それに対する医療政策や最近の診療報酬改定の基本方針である地方包括ケアシステムの推進と医療機能の分化・強化、連携に関する視点について説明があった。今後は更に多職種連携やかかりつけ薬剤師・薬局の薬学的管理や薬剤指導も求められる。平成 28 年 10 月に公表された「兵庫県地域医療構想」についても説明があった。兵庫県の医療資源は県全体では全国平均並みであるが、地域差があり、地域完結型の医療の構築が必要である。医療組織のマネジメントでは、ミッション・ビジョン・バリューの定義や患者満足度調査の必要性、SWOT 分析や PEST 分析（外部環境分析）、PPM (Products Portfolio Management)、BSC (Balanced Scorecard)、更にダニエル・ピンクの「モチベーション 3.0 理論」など各種の基本的な考え方が紹介され、興味深かった。最後に、各自の病院の魅力を考えてみる時間があったが、より良い経営のために病院の魅力を探し、それを伸ばしていくことも大切であると感じた。



医療サービスの質の向上のためには、職員一人一人のパフォーマンスを高めることが必要であり、パフォーマンスは能力とモチベーションのかけ算であるため、能力があってもやる気がなければ成果は上がらない。職場のリーダーとして自分だけでなく、後輩のモチベーションを向上させ、職場全体のモチベーションを管理するための手法を講義とグループディスカッションを通して学んだ。

モチベーションは可変性、個別性、コントロール性があるため、意識することで高めることができる。社会貢献、成長欲求、専門性志向、リーダーシップ、承認欲求、協調思考、手順・ルール、WLB (Work Life Balance) 志向といったモチベータ(やる気のもと)を分析し、各人のプラス・モチベータとマイナス・モチベータを同定し、それらのモチベータを高めることでモチベーションを向上させる。マイナス・モチベータを高めることは効果が大きいがかかるためどのモチベータを育成すべきかは、その人の現在のモチベーション、求められる成果の内容、周りの環境により様々である。

事前に行った研修生のモチベーション診断結果を使用し、自己分析を行うとともに、グループディスカッションで上司役と部下役に分かれ、部下の今後のモチベーションを維持・向上させるプランを考え、面接対話のロールプレイを行った。面接対話では、相手を理解しようと努力することが必要であり、そのためには内省を促す質問(拡大質問、未来質問、肯定質問)で部下の気持ちを引き出すようにすることが大切である。

ワークスタイル(仕事に前向きに取り組むときの姿勢)にはタイプⅠとⅡがあり、タイプⅠは量優先、タイプⅡは質優先であり、タイプによってコミュニケーションの取り方が違う。管理者に望ましいワークスタイルは、ややタイプⅠの意欲で量を追求しつつ、仕事の質を維持し、目標を明確にして人間関係に配慮しながら委任することである。早い段階で仕事全体を委任し、最終期日を設定し、途中での干渉は避ける。ただし、チェックポイントでのレビューは確実に行う。また、明確にブリーフィングを行うことも大切であり、その仕事の目的、目標、仕事の優先順位、資源、期日を伝えておく。



薬剤師専門教育研修(感染制御・救急領域)

平成28年11月1日(火) 兵庫県立加古川医療センター(参加8名)

専門薬剤師研修(感染制御・救急領域)では、①医師の講義(ショックの分類とその対応～温故知新～)②医師の講義(感染症治療において薬剤師に期待すること)③ディスカッション(救急及び感染領域における薬剤師の介入症例について)④薬剤師の講義(感染及び救急領域における資格取得に必要な知識と認定制度について)が実施された。

医師による講義では、救急領域として、ショックの分類、外傷治療におけるダメージコントロールの概念、敗血症におけるガイドラインの変遷及び最新の知見を学んだ。感染領域として、抗菌薬同士の特徴や違いを理解し、患者に対して有益な治療を行うために一番適切な抗菌薬を選択する必要性を学んだ。

ディスカッションでは、救急領域と感染領域で各1症例ずつ提示され、治療の進め方、適切な抗菌薬の選択に必要な検査や、抗菌薬の種類、投与量・期間等について活発な議論が行われた。実際の症例を用いて意見交換を行うことにより、知識の幅が広がった。

薬剤師による講義では、認定試験の受験資格についての説明があり、受験する意思がある場合は、県立病院薬剤師の教育育成に関する指針に記載のとおり、早い時期から、学会入会や単位取得等の事前準備を行う必要があることを学んだ。本研修で学んだことを今後の業務に活かしたい。

薬剤師専門教育研修（がん領域）

平成 28 年 11 月 30 日（水）兵庫県立西宮病院（参加 8 名）

専門教育研修(がん領域)では、①医師の講義(軟部肉腫の最新治療)②薬剤師の講義(有害事象のマネジメント、認定薬剤師制度)③グループディスカッション形式による症例検討(がん薬物療法における薬剤師の処方提案の実践)が実施された。

医師による講義では、専門薬剤師として知っておくべき肉腫における病態と薬物療法に関する知識を身につけた。症例・研究から学ぶことで軟部肉腫の最新治療について知ることができた。

薬剤師による講義では、有害事象のマネジメントについて各種ガイドラインに沿った解説があり、「その対策」を「なぜ行うのか」ということを理解することができた。また、認定薬剤師制度については外来がん治療認定薬剤師の認定取得のために必要な事項及び試験対策について学んだ。症例サマリの書き方や試験問題などに触れることで、外来がん治療認定薬剤師試験についての意識を高めることができた。

症例検討では、薬剤師が治療開始前から確認すべき検査項目をはじめ、投与量の妥当性や副作用対策の確認等について活発な議論が行われた。

本研修で学んだことを活かし、質の高い抗がん剤治療を提供していけるように努めたい。

平成 28 年度 県立病院相互利用実績

実施日	内容	病院名	参加人数
11月15日	心不全カンファレンス	尼崎総合医療センター	3名
11月25日	外来化学療法患者への服薬指導、 外来麻薬指導	がんセンター	2名
11月28日	集中治療室業務（成人）	尼崎総合医療センター	2名
11月28日	集中治療室業務（小児）	尼崎総合医療センター	2名
11月29日	せん妄ラウンド	尼崎総合医療センター	4名
12月1日	抗菌薬適正使用カンファレンス	尼崎総合医療センター	4名

※県立病院相互利用：県立10病院における新規業務、システム、特徴的な取り組み（チーム医療、病院独自の取り組みなど）を病院間で情報共有することにより、人的・物的資源の有効活用を図ると共に、県立病院全体の業務の質の向上を図る取り組み

兵庫県立病院レジデント制度

兵庫県立病院レジデント 受入実績

平成 28 年度受入人数：20 名（1 年目 13 名、2 年目 7 名）

平成 27 年度レジデントのうち県職員合格者：4 名

【参考】レジデント受入年次推移

平成 26 年：12 名 平成 27 年 14 名

兵庫県立病院 「レジデントの声」

「薬剤師レジデント制度による研修を受けて」

兵庫県立淡路医療センター薬剤師レジデント（2年目） 檀 和貴

兵庫県立淡路医療センター薬剤師レジデント 2年目の檀と申します。

私は幅広い知識を身につけた臨床薬剤師を目指して兵庫県立病院の薬剤師レジデントを志望しました。レジデントは調剤、医薬品管理、DI等、薬剤師の基本業務について、仕事をしながら丁寧な指導を受けることができます。また、淡路医療センターではBRIDGEという、上級医による研修医向け講義が定期的に行われており、薬剤師にも参加の声がかかります。年に1度の学会発表も義務付けられており、データ収集や評価を通じてスキルアップできる環境が整っています。さらに、他にはない特徴的な内容として1年目後半には3ヶ月間の救急外来実習、2年目には1週間、薬剤部を離れて医師と共に医療現場にたつことのできる研修があります。

淡路地域は医療センターを中心に薬剤師会との連携が強く、糖尿病患者に対するシックデイルールの取り決めなど、お互いが協力してよりよい医療を提供できるシステム構築に励んでいます。

淡路でのレジデントでは薬剤師としての基本となる業務を身につけ、共にチーム医療を担う仲間をたくさんつくることができました。医師や看護師ともコミュニケーションをとりやすく、情報交換も活発です。充実した研修プログラムを受けることのできるレジデント制度によって、目指す臨床薬剤師に一歩近づけたように思います。

論文・書籍出版・学会発表

病院名：（尼）…尼崎総合医療センター（西）…西宮病院（加）…加古川医療センター
（淡）…淡路医療センター（光）…光風病院（柏）…柏原病院（こ）…こども病院
（か）…がんセンター（姫）…姫路循環器病センター（粒）…粒子線医療センター
※…レジデント

○学会発表における共同発表者は記載を省略しています

〈論文発表〉

期間：平成27年12月～平成28年11月

Role of the Pharmacist within the Heart Failure Team. Yakugaku Zasshi. 2016;136(8):1125-8.	（尼）寺崎展幸
メシル酸イマチニブにより紅斑型薬疹および肝機能異常を認めたが脱感作療法にて継続が可能となった巨大直腸GISTの1例 医療薬学 42(6)453-459 (2016)	（柏）垣尾尚美

〈書籍等出版物（メーカー作成の出版物(パンフレット、小冊子等)を除く)〉

上段：タイトル・著者/下段：出版社等 期間：平成27年12月～平成28年11月

最強！心不全チーム医療 スペシャリスト集団になる メディカ出版	（尼）寺崎展幸
論壇「医療人としての病院薬剤師」に求められること 週刊薬事新報5月19日 第2942号	（西）相生勇作
「管理栄養士も知っておきたい水分・電解質管理と輸液のポイント」 Nutrition Care メディカ出版	（淡）辻本勉

● 日本臨床救急医学会 平成 28 年 5 月 14 日	
薬剤師が入院前常用薬の有害事象を検討する重要性	(尼) 梶田祐三子
● 第 59 回日本糖尿病学会年次学術集会 平成 28 年 5 月 19 日～21 日	
「薬剤師」として専門的な能力を発揮しやすい理想の医師像	(淡) 辻本勉
● 第 10 回日本緩和医療薬学会年会 平成 28 年 6 月 3 日～6 月 5 日	
持参薬における Rapid Onset Opioid 製剤の適正使用	(尼) 田中雅子
タペンタドール徐放錠とモルヒネ徐放錠・オキシコドン徐放錠の内服困難期間の比較調査	(柏) 池尾崇志
循環器専門病院における緩和ケアチーム活動 ～終末期心不全患者の呼吸困難の緩和に対する試み～	(姫) 高橋知孝
● 第 64 回日本化学療法学会総会 平成 28 年 6 月 9 日～11 日	
発熱性好中球減少症対策強化のための持続型 G-CSF の使用実態調査	(柏) 垣尾尚美
● 日本心臓リハビリテーション学会 平成 28 年 7 月 16 日～17 日	
心臓リハビリテーションにおける薬剤師介入への要望調査から得られた課題	(姫) 前田真由子
● 第 14 回日本臨床腫瘍学会学術集会 平成 28 年 7 月 28 日～30 日	
イマチニブにより紅斑型薬疹および肝機能異常を認めたが脱感作療法にて継続が可能となった巨大直腸 GIST の 1 例	(柏) 垣尾尚美
dose-dense AC 療法の安全性と薬剤師の介入の有用性の検討	(が) 荒瀬みのり
● 第 14 回県立病院学会分科会 平成 28 年 9 月 10 日	
神経変性疾患患者に対する唾液分泌抑制効果のある 5% スコポラミン軟膏の効果検証	(尼) 奥貞佳世子
ネフローゼ症候群合併妊婦のニューモシスチス肺炎予防にアトバコンを使用した 1 例	(尼) 森永皓子
認知症・せん妄サポートチームにおける薬剤師の取り組みについて	(尼) 足立萌
「県立病院薬剤師の教育育成に関する指針」に基づく研修の実施結果について	(尼) 寺崎展幸
薬剤師が入院前常用薬の有害事象を検討する重要性	(尼) 梶田祐三子
感染性肝嚢胞患者に対し、ICT 抗菌薬ラウンドを実施した一症例	(西) 山田真人
オキサリプラチンによる末梢神経障害予防のための取り組み	(西) 尼谷こゆは
有効で安全な抗がん剤治療のためのレジメン更新への取り組み	(加) 福田朝恵
高カロリー輸液とワルファリンカリウム併用患者の PT-INR の推移について	(加) 前原大輔
オピオイド導入時の嘔気・嘔吐に対する内服制吐剤の使用状況と有用性	(加) 坂井良美
イマチニブによる紅斑型薬疹及び肝機能異常を認めた が脱感作療法で継続可となった巨大直腸 GIST の 1 例	(加) 植木彩
酸化マグネシウム製剤服用患者における血清マグネシウム濃度測定の実態調査	(淡) 片山瑞補
冠動脈造影における造影剤腎症の発現と予防に対する調査	(淡) 猪股浩介
院内検査ガイドライン及び炭酸リチウムの血液検査オーダープロトコル策定後の経過報告	(光) 田中将太
薬剤師によるがん患者指導管理料 3 算定への取り組み	(柏) 垣尾尚美
県立病院薬剤部における「DPC データベンチマークシステム “girasol” の活用」について	(柏) 石田達彦
薬剤師による検査オーダー入力 ～HBV再活性化による肝炎発症阻止に向けた取り組み～	(柏) 森田紗代
院内ガイドライン作成による手術・検査前の抗血栓薬取り扱いの標準化	(柏) 数田素子
当院における後発医薬品指数の推移調査と薬剤費への影響について	(柏) 田畑佳祐
小児がん化学療法レジメン管理におけるシステム化の有用性	(こ) 岸本早百合
散薬及び水薬調剤ロボット導入による調剤業務の効率化	(こ) 靱井佳奈
後発医薬品採用促進と材料費削除への取り組み	(が) 伊勢原祐子
アフマチニブの使用状況調査～適切な薬剤管理指導に向けて～	(が) 逸見結衣
カバジタキセル投与患者における薬学的管理について	(が) 遠藤由里香

薬剤師による糖尿病教育入院の取り組みについて	(姫) 千保円
薬品マスタ更新業務の効率化について	(姫) 初田真穂
心臓リハビリテーションにおける薬剤師介入への要望調査から得られた課題	(姫) 前田真由子
システムを活用した「より安全な処方チェック」の実現をめざして	(粒) 合田泰志
●第26回日本医療薬学会 平成28年9月17日～19日	
神経変性疾患患者に対する唾液分泌抑制効果のある5%スコパラミン軟膏の効果検証	(尼) 奥貞佳世子
ネフローゼ症候群合併妊婦のニューモシスチス肺炎予防にアトバコンを使用した1例	(尼) 森永皓子
認知症・せん妄サポートチームにおける薬剤師の取り組みについて	(尼) 足立萌
散薬調剤ロボット導入による調剤業務の効率化	(こ) 由良沙央理
アプストラル®舌下錠適正使用のための取組み	(が) 佐倉小百合
当院における薬剤師レジデント研修について	(姫) 東佑輔
●第49回日本薬剤師会学術大会 平成28年10月9日～10日	
当院における後発医薬品指数の推移調査と薬剤費への影響について	(柏) 田畑佳祐
●第54回日本癌治療学会学術集会 平成28年10月20日～22日	
S-1 と Warfarin の適正使用にむけて	(姫) 大野真孝
●第5回くすりと糖尿病学会 平成28年10月29日～30日	
県立加古川医療センターにおけるインスリン自己注射の手技習得の状況調査	(加) 松村美紀
チームで支え合う薬物治療を目指して	(淡) 辻本勉
低血糖で救急搬送された糖尿病患者の実態調査	(淡) 岡田悠加
保険薬局における糖尿病患者へのシックデイルールの対応について	(淡) 小林真弓
淡路医療センターにおける SGLT2 阻害薬の使用実態について	(淡) 片山瑞補
薬剤師による糖尿病教育入院の取り組みについて	(姫) 千保円
イブラグリフロジンによる血清尿酸値低下についての検討	(姫) 東佑輔
●第53回日本糖尿病学会近畿地方会 平成28年11月12日	
糖尿病教育チームによる糖尿病教室の薬物療法講義の見直し	(尼) 坊ヶ内協子
●第13回日本周産期メンタルヘルス学会学術集会 平成28年11月19日～20日	
抗精神薬服用妊婦に対して行った授乳中の薬の影響に関する早期薬剤情報提供の有用性	(尼) 峯松真梨※
●第48回日本小児感染症学会総会・学術集会 平成28年11月19日～20日	
当センターにおける小児を対象としたバンコマイシンの至適投与量に関する検討	(尼) 磯元啓吾
●第11回医療の質・安全学会学術集会 平成28年11月19日～20日	
安全で有効ながん化学療法のためのレジメン更新への取組み	(加) 横田聖子
●第10回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会 平成28年11月19日～20日	
テイコプラニン TDM における薬剤部の取組みとその効果～抗菌薬 TDM ガイドライン2016と当院プロトコルの比較～	(加) 大城里紗
●第64回日本化学療法学会西日本支部総会 平成28年11月24日～26日	
ICT 担当薬剤師による抗菌薬適正使用の推進に向けた薬剤部カンファレンスの実施について	(尼) 高田知正※
当院におけるポリコナゾールの使用状況の後方視的検討について	(尼) 寺崎展幸
●第58回日本小児血液・がん学会学術集会 平成28年12月15日～17日	
Successful management of treatment-related toxicity with Daikenchuto during the anti-cancer treatment in a patient with Down syndrome.	(尼) 大原沙織
●第57回日本肺癌学会学術集会 平成28年12月19日～21日	
ニボルマブの糖尿病・内分泌系疾患検査状況に関する単施設調査：記述疫学研究	(尼) 新川実季
●第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会 平成29年2月23日～24日	
中心静脈栄養療法を行う患者のNST介入の現状と課題について	(尼) 井上智恵

●第32回 日本環境感染学会 平成29年2月24日～25日	
当院のバンコマイシン投与におけるガイドライン適合性の検証	(加) 土井本和久
産婦人科領域の術後感染予防抗菌薬の見直しと経済効果について	(柏) 数田素子
当院における抗菌薬の適正使用に対して、チームとして活動し達成できたこと	(こ) 三輪祐太郎
●第38回日本病院薬剤師会近畿学術大会 平成29年2月25日～26日	
抗がん剤治療患者の排泄物曝露説明用パンフレット作成について	(尼) 上り口誠
救命救急・集中治療病棟担当薬剤師の業務標準化プロトコル作成について	(尼) 直朋弘
当院NICUにおける薬剤管理指導業務の標準化について	(尼) 二星知紗
当院におけるC型慢性肝疾患患者(ジェノタイプ1型)に対するソホスビル/レジパスビル配合剤及びオムビタスビル/パリタプレビル/リトナビル配合剤の治療効果と有害事象に関する調査	(尼) 辰美佳
薬剤師による看護師への注射薬に関する研修会の開催とアンケート調査	(尼) 永岩早稀
当院CCU病棟における腎障害を併発した急性心不全患者に対するトルバプタンの有効性の検討	(尼) 橋本貴史
イトラコナゾール内用液の服薬アドヒアランス向上への試み～同種造血幹細胞移植患者症例を通して～	(尼) 石井恵理香
トラベクテジンにより横紋筋融解症を発症した一例	(西) 大林美花※
当センターへのリウマチ膠原病センター移管に対する薬剤部の取り組み	(加) 瀬川和子
院内発症髄膜炎における抗菌薬使用実態調査	(加) 長谷川みどり
オピオイド使用による嘔気・嘔吐出現の予測因子に関する調査	(加) 百済圭祐
ROO製剤適正使用推進のための患者向け資料作成	(加) 河合飛佳※
当センターにおけるハーボニー配合錠導入時の病棟薬剤師の役割	(加) 荒井信子※
Linezolidによる血小板減少発生頻度と危険因子の検討	(淡) 畑祥平
ビーフリードR輸液投与患者における血管痛・静脈炎発症の要因と頻度調査(第2報)	(淡) 檀和貴※
当院における向精神薬の処方調査 ー適正な精神科薬物療法へ向けてー	(光) 田中将太
薬剤師による検査オーダー入力 ～HBV再活性化による肝炎発症阻止に向けた取り組み～	(柏) 森田紗代
クリニカルパスにおけるSSI予防抗菌薬の適正化と材料費(薬剤費)の見直し	(柏) 入江優美
当院における化学療法レジメンに含まれる制吐薬の現状調査	(柏) 中須賀基
薬剤師の介入により小児がん治療でのアザシチジン末梢投与による投与部位痛の除去に成功した一例	(こ) 永井浩章
散剤調剤ロボットの導入における作業効率化とリスク軽減について	(こ) 中西有璃
麻薬適正管理に向けた取り組み	(が) 相尾友香
経口抗がん剤の処方箋への薬歴表示導入によるリスク軽減	(が) 古川直登
カバジタキセル投与患者への薬剤管理指導の検証	(が) 多々見俊輔※
外来化学療法室拡大における安全かつ効率的な抗がん剤調製への取り組み	(が) 児玉潤智※
薬剤師による糖尿病教育入院の取り組みについて	(姫) 千保円
薬品マスタ更新業務の効率化について	(姫) 初田真穂
心臓リハビリテーションにおける薬剤師介入への要望調査から得られた課題	(姫) 松岡彩絵※
バンコマイシン投与下における解熱鎮痛薬の腎機能への影響について	(姫) 山口博文※
●第44回日本集中治療医学会学術集会 平成29年3月9日～11日	
当院集中治療領域における薬剤師の育成	(柏) 石田達彦
●第81回日本循環器学会学術集会 平成29年3月17日～19日	
直接作用型経口抗凝固薬(DOAC)の適正使用状況調査	(尼) 久保祥子
トルバプタンの長期使用の安全性と有効性の検討	(姫) 高村志保
●日本臨床腫瘍薬学会2017 平成29年3月18日～19日	
治癒切除不能な進行・再発胃がん患者に対するラムシルマブによる副作用の実態	(加) 鹿島彩絵

専門・認定薬剤師等の取得

資格取得者からのメッセージ

小児薬物療法認定薬剤師 こども病院 由良沙央理

小児薬物療法認定薬剤師を目指したきっかけは、総合病院で小児科病棟の担当になり、小児についてほとんど知識がないことを実感したからでした。成人と同じ疾患でも治療へのアプローチが異なることが多く、また使用できる薬剤も限られます。エビデンスの少ない小児の薬物療法を安全に行うために、小児のことを理解し、適切な薬物療法を提案できる存在になりたいと思い認定を取得しました。

認定取得には、小児の発育や成長の特性、種々の疾患、薬物療法の具体的な実践方法等の講義をe-ラーニング形式で受講すること、小児科病棟で薬剤管理指導業務が実施されている病院で小児関連実務研修を行うこと、そして試験に合格することが条件となっています。通常業務と平行して認定取得の勉強を行うことは簡単なことではありませんでしたが、多くの知識の吸収と共に同じ想いを持った方々との出会いもあり、自分の世界を広げることができたと思います。

認定取得で得た知識を活用して、病棟薬剤業務では、患児の年齢、体重、検査値、アレルギー歴等の情報から処方薬剤の選択や用法用量が適正か確認を行っています。また薬の服用困難な患児には、医師や看護師と相談し、その患児に適した服用方法の提案や保護者へのアドバイスをしています。まだ不明なことが多いこの分野で、様々な情報から総合的に最適な方法を探索することはとても難しく責任の大きい仕事です。しかし、患児が薬を飲めるようになったり、自分の提案が受け入れられた際はとてもやりがいを感じます。

専門や認定といった資格は取得してからが始まりです。興味のある分野を極め、チーム医療を発展させていくきっかけとして取得を目指してみませんか？

県立病院における専門・認定薬剤師等の取得状況

(単位：人)

名 称・認定団体等		尼崎総合 医療センター	西宮病院	加古川 医療センター	淡路 医療センター	光風病院	柏原病院	こども病院	がんセンター	姫路循環器病 センター	医療センター 粒子線	合 計
がん専門薬剤師	日本医療薬学会								1			1
がん薬物療法認定薬剤師	日本病院薬剤師会						1					1
感染制御認定薬剤師	日本病院薬剤師会	1		1			1					3
日本糖尿病療養指導士	日本糖尿病療養指導士 認定機構	1	1	1	1		1	2	1			8
栄養サポートチーム専門療法士	日本静脈経腸栄養学会	1	2	1	2		1	2	1	1	1	12
緩和薬物療法認定薬剤師	日本緩和医療薬学会								2	1		3
日本医療薬学会認定薬剤師	日本医療薬学会						2				1	3
医療情報技師	日本医療情報学会							1		1		2
生涯研修履修認定薬剤師 (5年)	日本病院薬剤師会	10	6	7	2	3	4	7	5	7	2	53
生涯研修認定薬剤師(単年)	日本病院薬剤師会	2			7		2	3	1			15
研修認定薬剤師	日本薬剤師研修センター	2			1	1	2	2	4	1	1	14
認定実務実習指導薬剤師	日本薬剤師研修センター	11	5	6	5	2	2	6	7	5	1	50
日病薬認定指導薬剤師	日本病院薬剤師会	2	1	2		2	1	1	2	2		13
小児薬物療法認定薬剤師	日本薬剤師研修センター	1						4				5
漢方薬・生薬認定薬剤師	日本薬剤師研修センター	1										1
日本臨床薬理学会認定 CRC	日本臨床薬理学会								1			1
救急認定薬剤師	日本臨床救急医学会	1	1									2
抗菌化学療法認定薬剤師	日本化学療法学会	1	1	1			1					4
日本 DMAT 隊員	厚生労働省医政局長	2	2	2						1		7
スポーツファーマシスト	日本アンチ・ド・ピング機構			1	1							2
外来がん治療認定薬剤師	日本臨床腫瘍薬学会		1					1				2
糖尿病薬物療法認定薬剤師	日本くすりと糖尿病学会				1							1
医療安全管理者	国際医療マネジメント学会	1						1				2
合 計		37	20	22	20	8	18	30	25	19	6	205

平成28年度教育研修委員会の取り組み

- 1 県立病院薬剤師の教育育成に関する指針に基づく研修の実施
「総合型薬剤師育成ラダーを用いたCPDに沿った生涯研修」について、昨年度職員（職位）に限り試行的に実施した結果を踏まえ、今年度から全職員を対象として全面実施した。
- 2 県立病院薬剤師研修の企画・運営
 - (1) 平成28年度第1回県立病院薬剤師研修（全体研修）
平成28年6月4日（土）開催 同研修会の企画・運営
 - (2) 平成28年度第2回県立病院薬剤師研修（階層別研修：担当課長補佐・課長補佐対象）
平成28年11月5日（土）開催 同研修会の企画・運営
 - (3) 薬剤師専門教育研修（がん領域）
平成28年11月30日（水）開催 同研修会の企画・運営
 - (4) 薬剤師専門教育研修（感染制御・救急領域）
平成28年11月1日（火）開催 同研修会の企画・運営
 - (5) 平成29年度第1回県立病院薬剤師研修（全体研修）
平成29年6月3日（土）開催予定 同研修会の内容等について企画
- 3 県立病院の相互利用の活性化
 - ・複数の施設が参加する合同研修を企画・実施した。
 - ・各病院の設備、業務内容及び特徴的な取り組みなどを「相互利用のための各県立病院情報」として更新し、県立病院薬剤部ホームページ（会員用）に公開した。
 - ・専門教育研修（がん領域、感染制御・救急領域）を県立病院で実施した。
- 4 薬剤部長会議「新人研修標準マニュアル」の改定
薬剤部長会議で過年度作成した同マニュアルについて、薬剤師業務の変化及び医療制度の改正等を踏まえ、現状に沿った内容に改定した。
- 5 教育研修委員会だよりの発行
県立病院のレジデントの受入実績及びレジデントの生の声を追加掲載して、教育研修委員会だよりの第14刊を発行した。

編集後記

今年度は、リオ五輪において、96年ぶりのメダルを獲得したテニスをはじめ日本人選手が大活躍しました。教育研修委員会では、新人研修標準マニュアルを改訂し、現在の制度等に即した内容となり、また、改訂指針に基づく研修も全職員対象となり薬剤師1人1人のレベルアップが図れるようになりました。今後は、これらのマニュアル・指針を活用し医療の現場で今よりも活躍できる薬剤師を目指せたらと思います。

教育研修委員

担 当 部 長 兵頭純子 國東ゆかり
委 員 長 本間久美子
副 委 員 長 安福修平
委 員 寺崎 展幸 黒田 明子 開田 郁代 大前 隆広 前原 大輔 團 優子
森田 紗代 三輪 祐太郎